

令和5（2023）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

種名	スズキ	対象水域	太平洋中・南部
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 社会・生態系システム部、千葉県水産総合研究センター、神奈川県水産技術センター、愛知県水産試験場、三重県水産研究所、徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課、高知県水産試験場、大分県農林水産研究指導センター 水産研究部、宮崎県水産試験場	協力機関名	

1. 調査の概要

千葉県、神奈川県、愛知県、三重県、徳島県、高知県、大分県、宮崎県の8県から主要漁法・漁獲量に関する情報を、さらに千葉県より令和4年度東京湾千葉県側におけるスズキ資源評価、三重県より令和2年度伊勢湾におけるスズキ資源評価、宮崎県より令和元年度宮崎県海域におけるスズキ資源評価の情報を収集した。本系群について、資源水準および動向判断は行われなかったが、千葉県が令和4年度に実施した東京湾千葉県側におけるスズキ資源評価、三重県が令和2年度に実施した伊勢湾におけるスズキ資源評価、宮崎県が令和元年に実施した宮崎県海域におけるスズキ資源評価において、本種の資源水準・動向判断を行っていることから、参考情報として一部を掲載した。

2. 漁業の概要

本種の漁獲量について漁業・養殖業生産統計年報（以下、漁獲統計）は1956年以降について、また、主要漁港の水揚げ量情報を、千葉県は2000年以降、神奈川県は2015年以降、愛知県は1972年以降、三重県は2001年以降、徳島県は2008年以降、高知県は2010年以降、大分県は2006年以降、宮崎県は2006年以降について集計した。

漁獲統計では太平洋中区におけるすずき類の漁獲量は2006年に5,100トンでピークを迎えたが、その後は漁獲量が減少傾向にあり、2022年における太平洋中区の漁獲量は1,784トンであった。太平洋南区では、2005年に95トンでピークを迎えたが、その後は60トン前後で推移しており、2022年の漁獲量は66トンであった（図1、表1）。県別では、千葉県が最も多く、2022年の漁獲量は1,082トンであり、愛知県（286トン）、神奈川県（183トン）の順に多かった（図2、表1）。なお、漁獲統計では、すずき類にスズキ、ヒラスズキ、その他のすずき類が含まれている。

千葉県では、すずき類の漁獲量は2006年に2,893トンでピークを迎えたが、その後は減少傾向が続いており、2022年の漁獲量は1,082トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における水揚げ量データより、本種の漁場は主に東京湾であると考えられるが、東京湾にお

ける本種の水揚げ量も2006年以降減少傾向であることが確認された（図3）。

神奈川県では、すずき類の漁獲量は2006年に955トンでピークを迎えたが、その後は減少傾向が続いており、2022年の漁獲量は183トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における本種の月別水揚げ量データより、2020年以前は東京湾における漁獲割合が高く、2021年以後は三浦半島における漁獲割合が高くなる傾向が確認された（図4）。また、本種は主に11月～翌年6月に漁獲されるが、東京湾では三浦半島および相模湾よりも7～10月に漁獲される割合が高い傾向も確認された。

愛知県では、すずき類の漁獲量は、1990年ごろから増加し、2016年に629トンでピークを迎えたが、その後は減少傾向が続いており、2022年の漁獲量は286トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における水揚げ量データより、伊勢湾における小型底びき網漁業による本種の水揚げ量も2017年以降減少傾向にあることが確認された（図5）。

三重県では、すずき類の漁獲量は、1990年ごろから増加し、1999年に467トンでピークを迎えたが、その後は減少傾向が続いており、2022年の漁獲量は95トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における月別水揚げ量データより、伊勢湾における小型底びき網漁業による本種の水揚げ量も2000年以降減少傾向にあり、本種の主な漁獲時期は11月～翌年6月であることが確認された（図6）。

徳島県の太平洋側では、すずき類の漁獲量は、2000年ごろから増加して2012年に8トンに達した後、減少と増加を繰り返しながら5～9トンの間で推移しており、2022年の漁獲量は5トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における月別水揚げ量データより、紀伊水道における小型底びき網漁業による漁獲量は2001年以降減少傾向にあることが確認された。紀伊水道では、本種は、水温が低下する12月～翌年5月に沿岸から紀伊水道深部の小型底びき網漁場に避寒回遊するため漁獲される。播磨灘でも同様に、水温が低下する12月～翌年5月に瀬戸内海奥部から播磨灘南部の小型底びき網漁場に避寒回遊するため漁獲される（図7）。いずれの漁場でも、本種は他種に比べて価格が安いため、狙っては漁獲されておらず、CPUEの推移も安定している（図8）。

高知県では、すずき類の漁獲量は、2005年に51トンでピークを迎えたが、その後は減少傾向が続いており、2022年の漁獲量は15トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における漁業種別月別水揚げ量データより、本種は11月～翌年6月に漁獲され、漁業種類による漁獲時期の違いはみられなかった（図9）。

大分県の太平洋側では、すずき類の漁獲量は2000年頃から増加傾向にあり、2018年に21トンに達した後、20トン前後で推移しており、2022年の漁獲量は18トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における月別漁業種別水揚げ量データより、本種の水揚げ量は2007年以降3～6トンの間で推移している。本種は主にまき網漁業、釣り漁業、その他の漁業によって漁獲され、小型底びき網漁業、船びき網、刺網でも漁獲されていた（図10）。漁業種別にみると、本種は主に11月～翌年6月に漁獲されるが、釣り漁業および船びき網漁業は他の漁業種類よりも7～10月に漁獲される割合が高く、漁業種類による漁獲時期の違いが確認された（図11）。

宮崎県では、すずき類の漁獲量は、2011年に34トンでピークを迎えたが、その後は20トン前後で推移しており、2022年の漁獲量は20トンであった（図2、表1）。同県主要漁港における水揚げ量データより、本種の水揚げ量は2006年以降に増加と減少を繰り返す傾向

が確認された（図12）。

3. 生物学的特性

東京湾および瀬戸内海東部のスズキについて、「東京おさかな図鑑 東京湾の魚」（東京都島しょ農林水産総合センター <https://www.ifarc.metro.tokyo.lg.jp/archive/27,948,55,226.html>、閲覧日：2024年2月13日）、日本水産資源保護協会・関西国際空港漁業環境影響調査委員会（1980）、および日本水産資源保護協会（1974）に基づき、以下を記載した。

- (1) 分布・回遊：東京湾では、夏季の高水温時には湾内の浅場や河川内に生息し、冬季の水温低下期には沖合の深場へと移動する。瀬戸内海東部（徳島県沿岸）においても、漁獲の経月変化から高水温時には瀬戸内海奥部や沿岸部に生息するが、12月～翌年5月の低水温期には播磨灘南部や紀伊水道の深場へ避寒回遊する傾向がみられる。
- (2) 年齢・成長：1年で体長20～25 cm、2年で30～35 cm、3年で40～45 cm。成熟年齢は2～3歳である。
- (3) 成熟・産卵：東京湾での産卵期は冬季で、4～5月に稚魚が河川へ遡上する。
- (4) 被捕食関係：魚類を主食とし、エビ、カニ類なども捕食する。

4. 資源状態

本資源は評価対象海域の広い海域において多様な漁法で漁獲される特徴を持ち、対象海域と漁法を網羅する努力量情報が得られないことから、海域全体では資源水準の判断は行わないこととした。千葉県（東京湾）の沿岸重要水産資源令和4年度資源評価（千葉県2023）では、東京湾千葉県側における小型底びき網のCPUE（kg/網数）を基準に、2021年の水準を高位、動向を増加と評価している。三重県による令和2年度沿岸種資源評価では、小型底びき網のCPUE（kg/日/隻）を基準にした判断により、資源レベルを高位、動向を横ばいと判断している（館2022）。宮崎県では、第9回（2019年）沿岸水産資源評価において、小型定置網のCPUE（kg/（統・日））を指標に、2018年の資源レベルを高位、動向を横ばいと判断している。なお、ヒラスズキの割合が高い（宮崎県2019）。徳島県による瀬戸内海域の調査では価格の低下に伴い狙っては漁獲しないが、CPUEの推移から資源量は安定していると評価している（図8）。

5. その他

東京湾においては、中・小型まき網漁業では冬季に休漁期間を設定している。加えて、小型底びき網漁業でも、休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、スズキ以外の魚種も含めて漁業類種ごとに自主的な資源管理が行われている（千葉県2023）。伊勢湾においては、小型底びき網漁業では定期休漁と操業日数制限が実施されている（館2022）。宮崎県においては、定置網漁業では使用漁具の制限が実施され、えびびき網漁業および刺網漁業でも、休漁日が設定されている（宮崎県2019）。

6. 引用文献

千葉県 (2023) 千葉県沿岸重要水産資源 令和4年度資源評価 スズキ (東京湾)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gyoshigen/sigenhyoka/documents/03-r4suzuki.pdf>

宮崎県 (2019) スズキ類の資源評価 (2019) [http://www.mz-suishi.jp/cgi-](http://www.mz-suishi.jp/cgi-bin/upload20/0259_suzuki2019.pdf)

[bin/upload20/0259_suzuki2019.pdf](http://www.mz-suishi.jp/cgi-bin/upload20/0259_suzuki2019.pdf)

日本水産資源保護協会 (1974) 徳島県新長期総合開発計画の水産資源および漁業・養殖業に及ぼす影響に関する調査報告書, 日本水産資源保護協会, 117-119.

日本水産資源保護協会・関西国際空港漁業環境影響調査委員会 (1980) 関西国際空港建設計画検討のための漁業環境影響調査委員会報告(昭和51~54年度), 3. 漁業生物班, 日本水産資源保護協会・関西国際空港漁業環境影響調査委員会, 56-61.

館 洋 (2022) 2020年度三重県におけるスズキの資源評価. 三重水研報, **28**, 32-38.

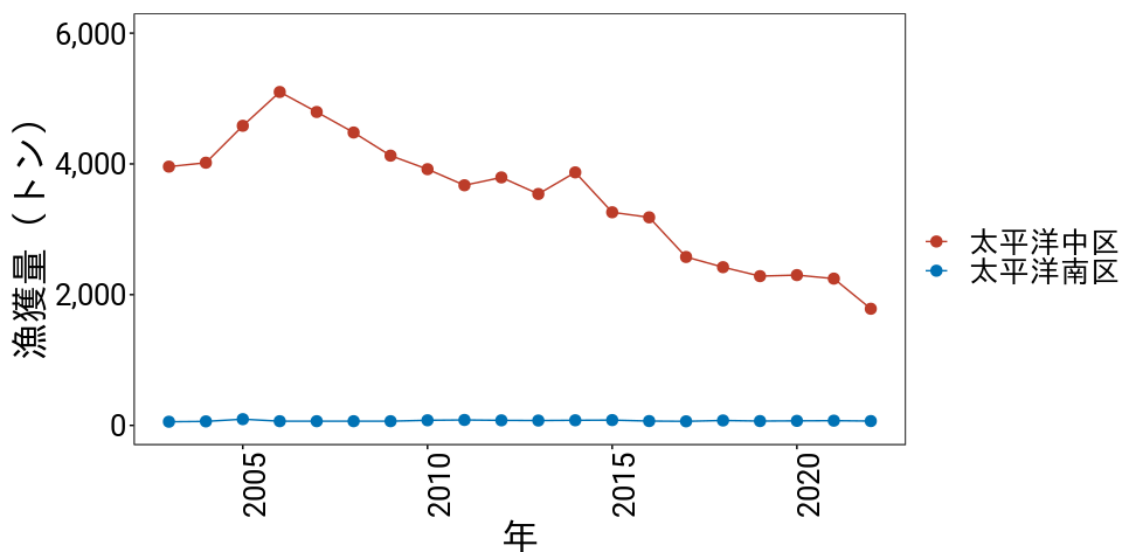


図1. 2003年以降の太平洋中区および南区におけるすずき類の漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報）

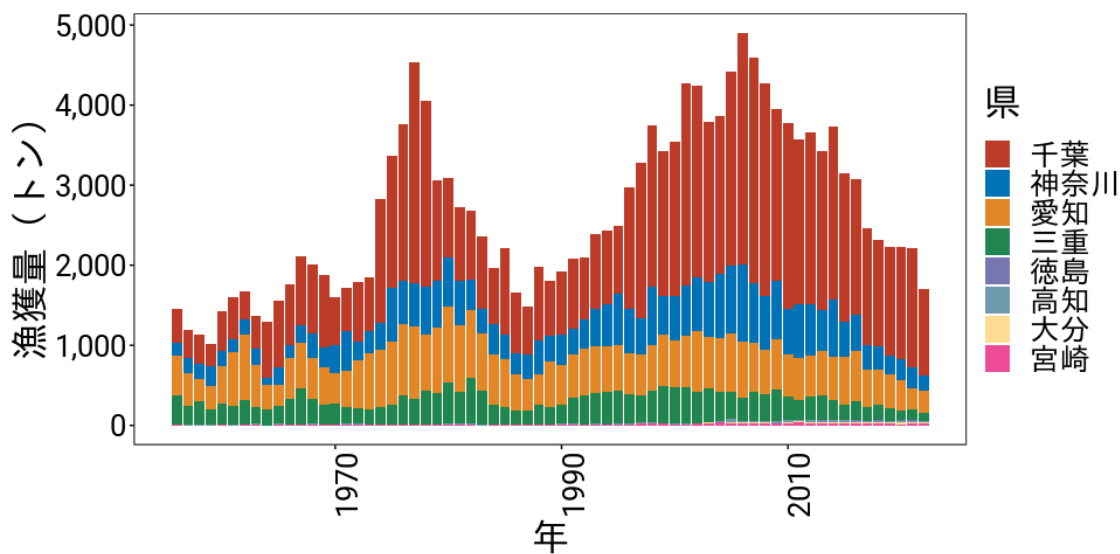


図2. 太平洋中・南部における調査対象県のすずき類県別漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報） 集計期間は県によって異なる（千葉県：1956～2022年、神奈川県：1956～2022年、愛知県：1956～2022年、三重県：1956～2022年、徳島県：2003～2022年、高知県：1956～2022年、大分県：2003～2022年、宮崎県：1956～2022年）。

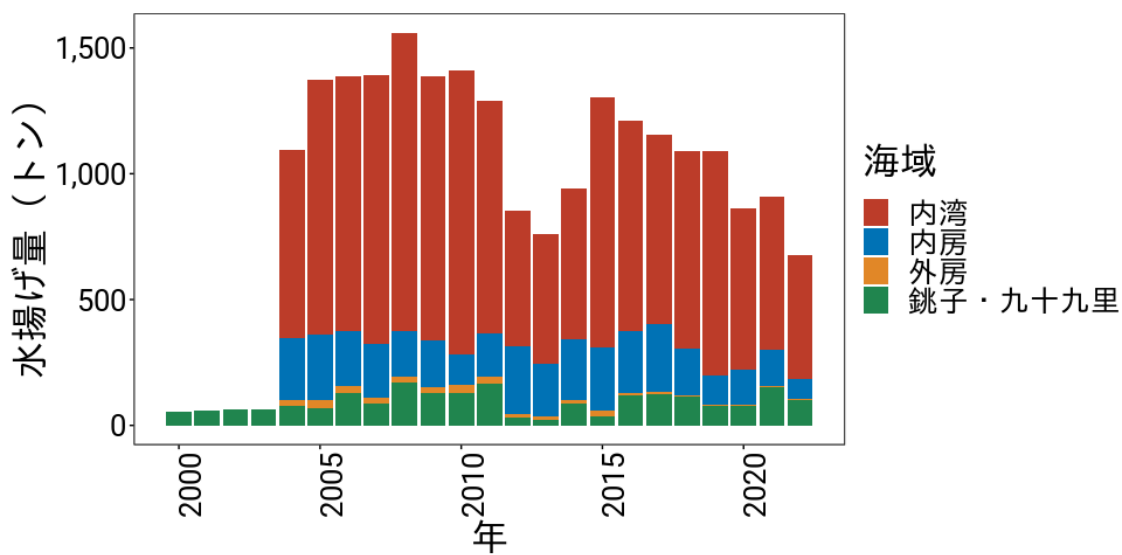


図3. 千葉県各海域の主要漁港におけるスズキの水揚げ量

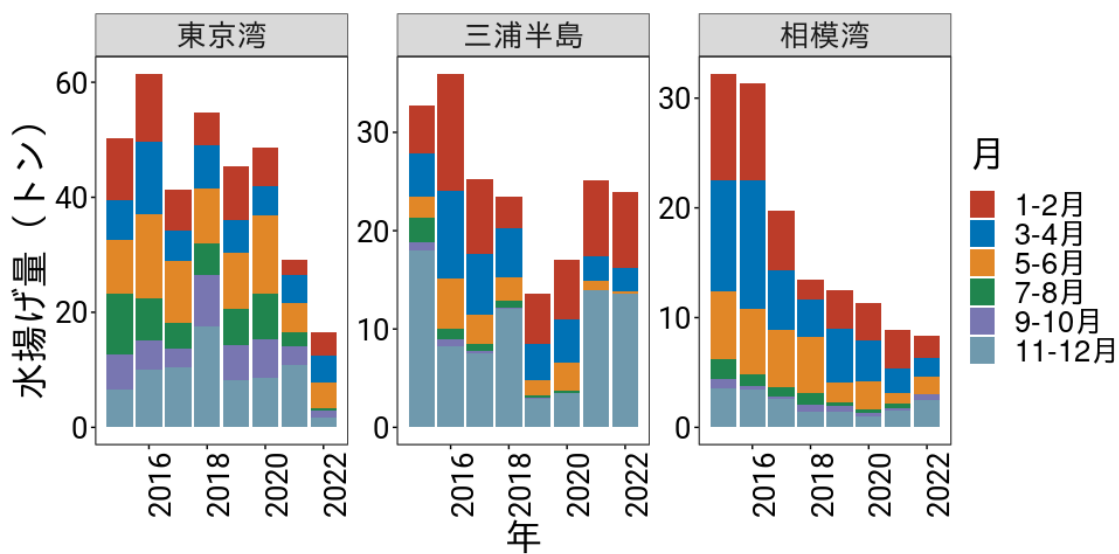


図4. 神奈川県各海域の主要漁港におけるスズキの月別水揚げ量の推移

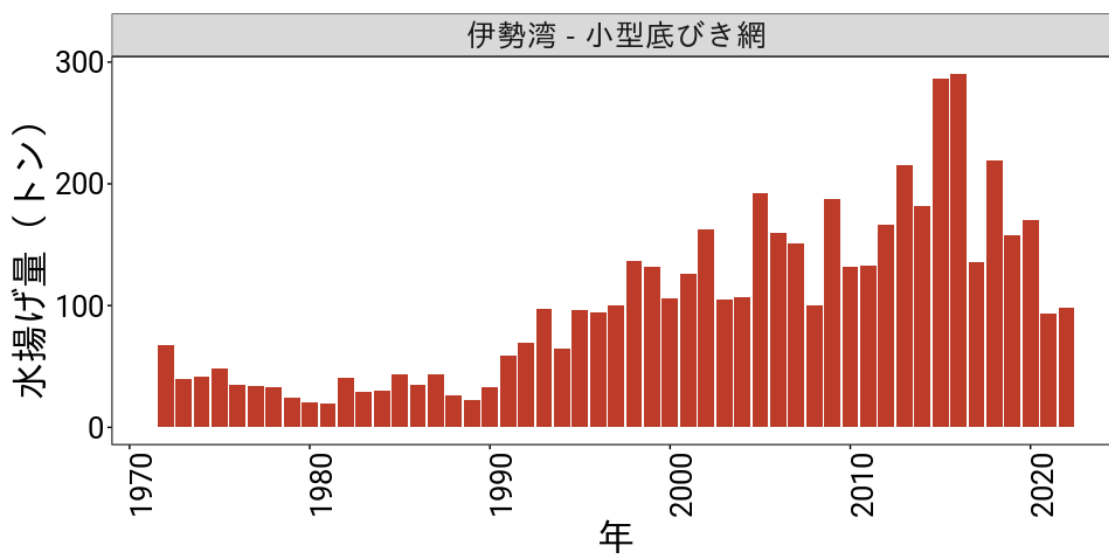


図5. 愛知県伊勢湾の主要漁港における小型底びき網漁業によるスズキの水揚げ量

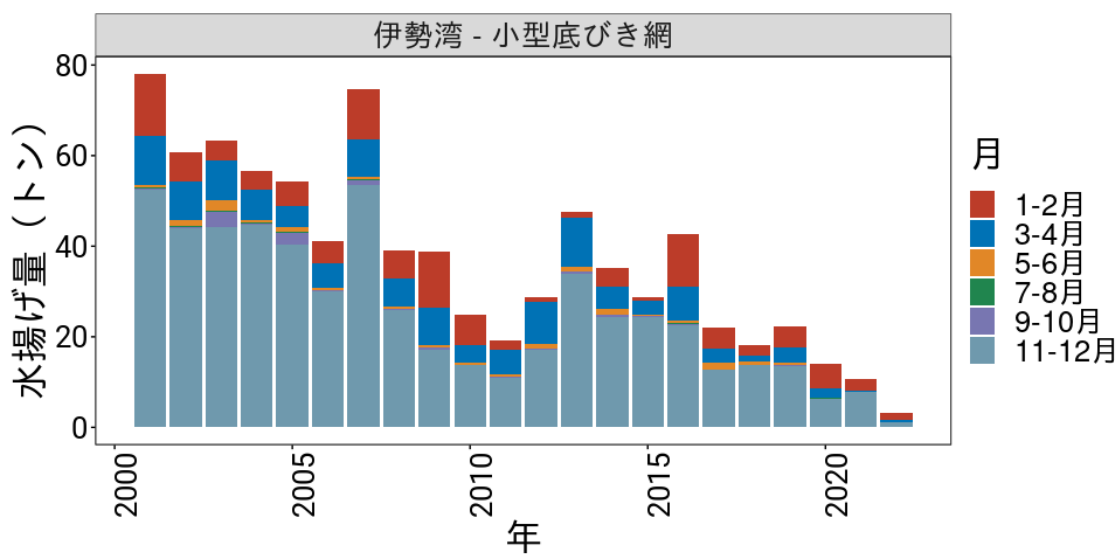


図6. 三重県伊勢湾の主要漁港における小型底びき網漁業によるスズキの月別水揚げ量の推移

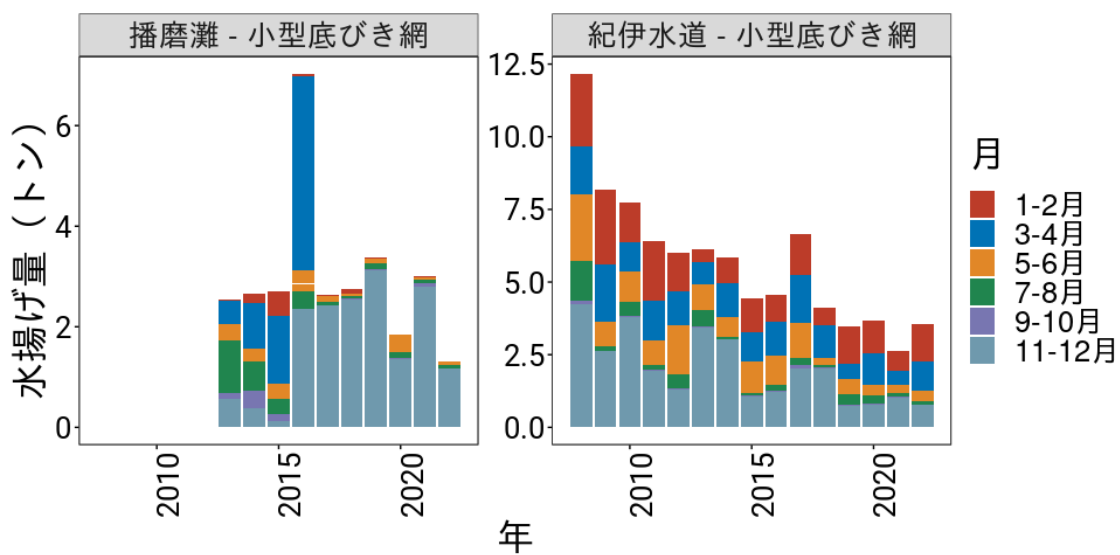


図7. 徳島県各海域の主要漁港における小型底びき網漁業によるスズキの月別水揚げ量の推移

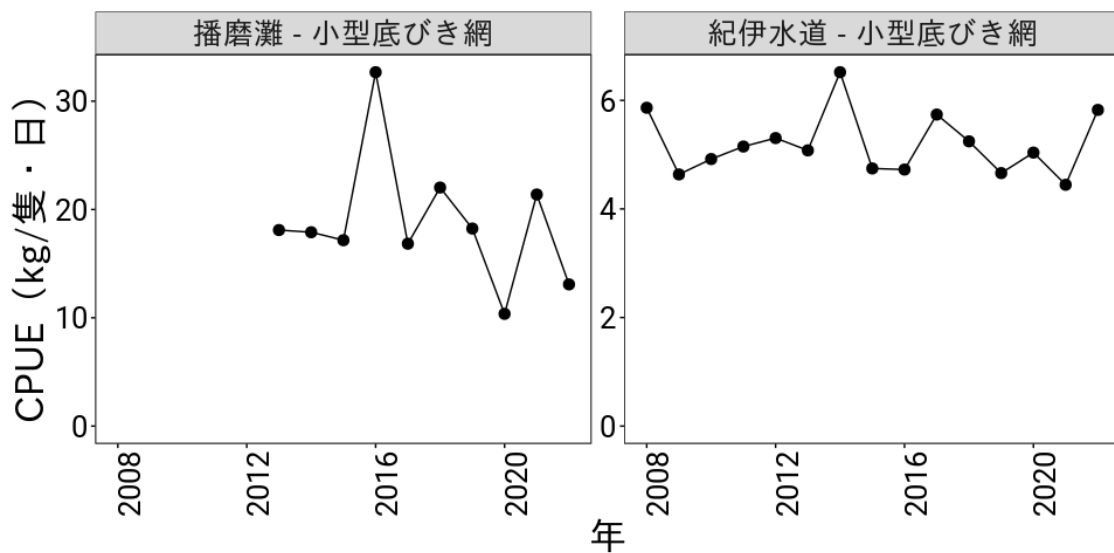


図8. 徳島県各海域の代表漁港における小型底びき網漁業によるスズキの CPUE (kg/ (隻・日))

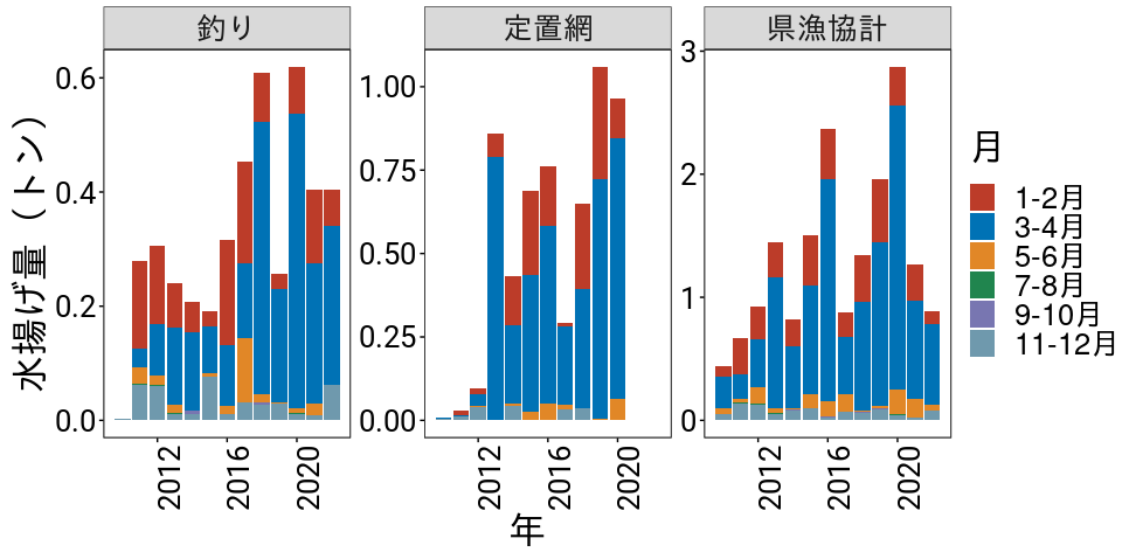


図9. 高知県の主要漁港におけるスズキの漁業種類別月別水揚げ量の推移

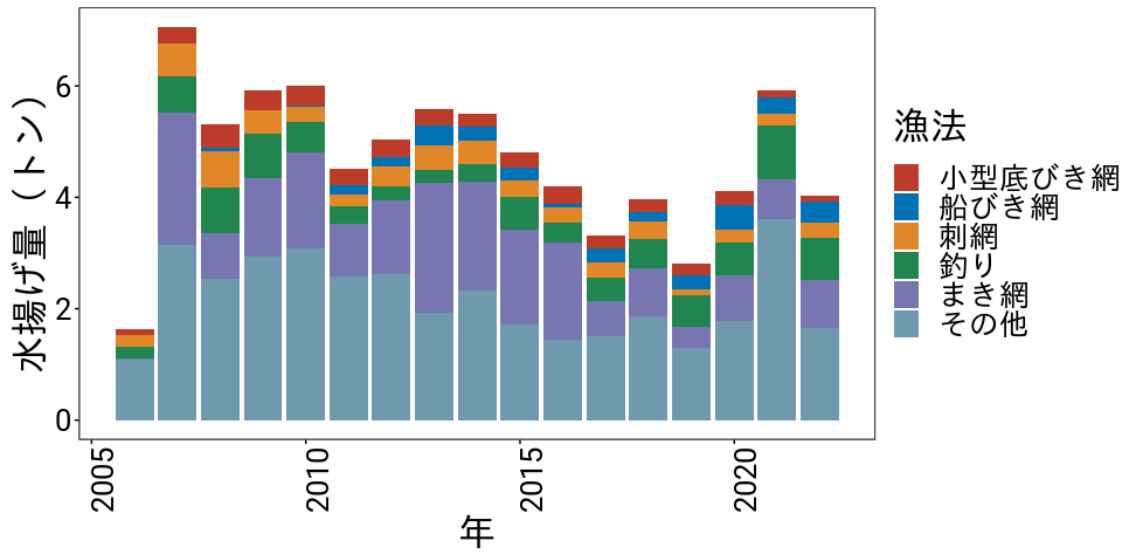


図10. 大分県の主要漁港におけるスズキの漁業種類別水揚げ量

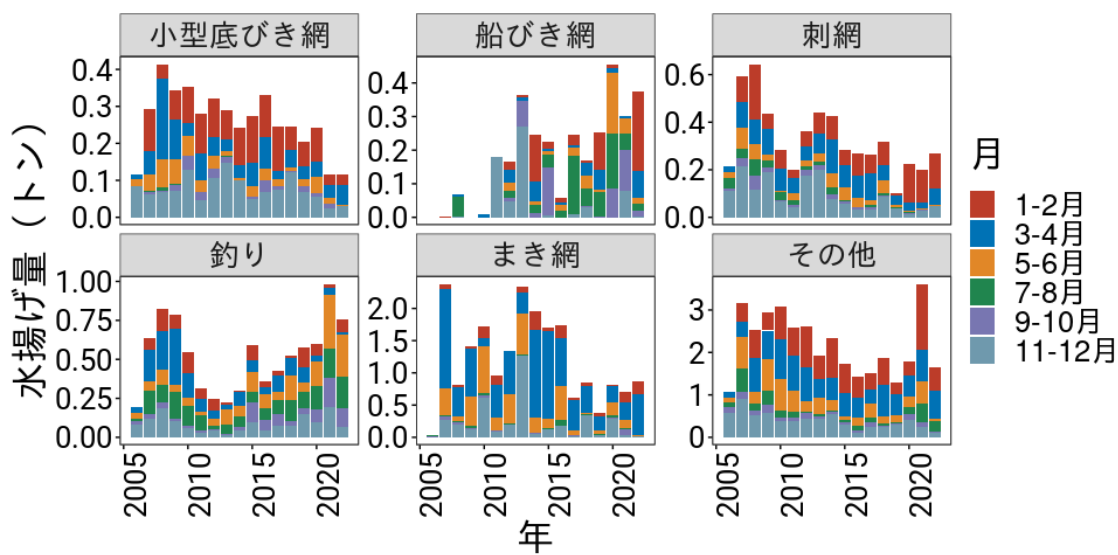


図 11. 大分県の主要漁港におけるスズキの漁業種類別月別水揚げ量の推移

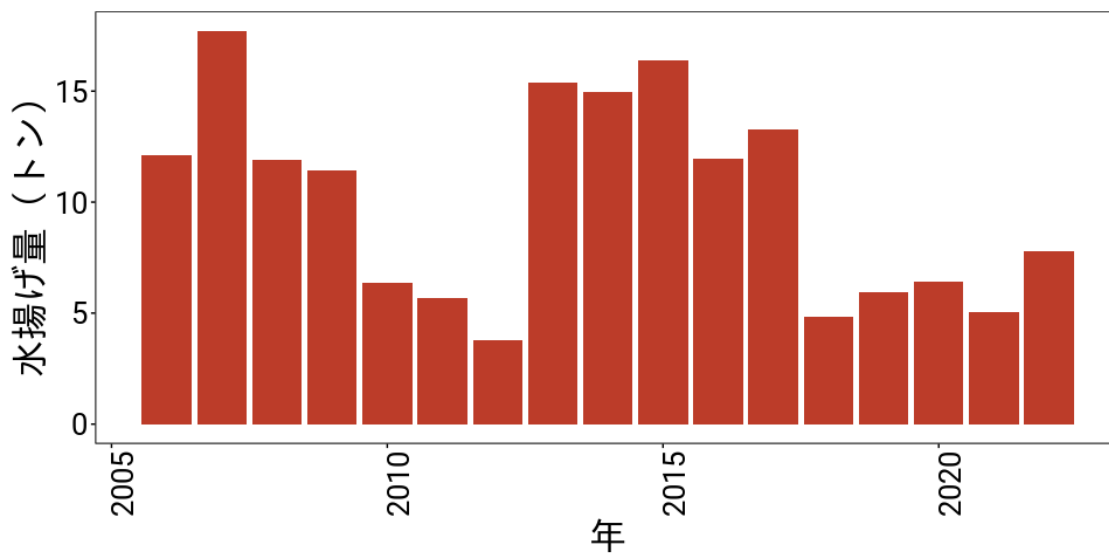


図 12. 宮崎県の主要漁港におけるスズキの水揚げ量

表 1. 1956～2022 年におけるすずき類の調査対象県、および海区別漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報、単位：トン） 徳島県と大分県は太平洋南海区における漁獲量を示す。

年	千葉	神奈川	愛知	三重	徳島	高知	大分	宮崎	中区	南区
1956	424	158	506	360		4		4		
1957	338	195	413	233		8		0		
1958	361	184	284	294		6		2		
1959	283	241	291	200		5		2		
1960	495	190	455	268		8		3		
1961	526	151	678	235		6		2		
1962	351	178	824	305		8		4		
1963	410	199	527	212		17		5		
1964	700	100	300	200		0		0		
1965	835	222	262	223		13		5		
1966	765	167	506	312		9		8		
1967	871	214	570	444		13		4		
1968	858	303	519	300		16		8		
1969	911	245	470	240		14		3		
1970	592	352	373	263		10		5		
1971	543	488	449	212		14		8		
1972	749	236	597	192		13		5		
1973	663	277	711	179		9		6		
1974	1,541	349	708	218		8		4		
1975	1,653	660	795	244		8		5		
1976	1,954	548	890	359		9		6		
1977	2,755	540	906	314		10		7		
1978	2,324	597	697	427		8		3		
1979	1,255	580	826	387		8		3		
1980	995	618	948	514		15		6		
1981	923	547	827	405		15		4		
1982	855	386	845	575		14		4		
1983	898	315	716	418		8		2		
1984	694	388	618	251		10		4		
1985	1,081	309	599	211		8		3		
1986	754	267	454	174		7		3		
1987	601	306	385	178		6		7		
1988	915	431	379	237		8		9		
1989	681	323	581	211		5		6		
1990	779	388	488	245		10		9		

表1. 1956～2022年におけるすずき類の調査対象県、および海区別漁獲量（トン）（続き）

年	千葉	神奈川	愛知	三重	徳島	高知	大分	宮崎	中区	南区
1991	875	329	533	332		7		13		
1992	776	365	572	363		8		9		
1993	938	462	587	387		7		11		
1994	915	524	572	401		7		9		
1995	841	650	564	411		11		12		
1996	1,524	562	506	362		11		15		
1997	1,936	453	507	338		15		25		
1998	2,009	734	569	390		15		24		
1999	1,820	483	631	467		13		18		
2000	1,919	557	588	454		11		12		
2001	2,527	622	639	458		10		14		
2002	2,388	670	764	389		10		21		
2003	2,000	686	645	417	2	12	11	21	3,958	56
2004	1,965	814	665	367	3	8	9	33	4,018	61
2005	2,427	845	729	326	4	51	11	22	4,583	95
2006	2,893	955	700	293	4	18	8	27	5,100	64
2007	2,806	757	605	362	4	18	15	21	4,794	64
2008	2,660	673	554	332	4	14	16	22	4,480	64
2009	2,146	724	636	393	x	21	13	18	4,126	64
2010	2,324	561	529	290	6	25	15	25	3,919	78
2011	2,054	677	515	246	7	20	14	34	3,673	83
2012	2,158	632	516	288	8	24	17	21	3,793	77
2013	1,981	503	563	306	6	19	17	25	3,540	74
2014	2,169	710	542	245	7	21	18	24	3,870	78
2015	1,850	444	598	179	5	26	17	27	3,260	81
2016	1,696	448	629	237	5	17	16	24	3,182	66
2017	1,469	308	458	178	6	12	15	23	2,576	62
2018	1,336	285	443	189	9	15	21	25	2,420	75
2019	1,353	237	425	154	7	17	18	19	2,283	66
2020	1,406	258	377	129	8	21	17	17	2,299	69
2021	1,495	257	266	129	7	16	24	19	2,245	72
2022	1,082	183	286	95	5	15	18	20	1,784	66